

こぜんないせき 16. 高善庵遺跡

所在地：三方郡美浜町興道寺

調査原因：内容確認

調査期間：平成30年1月31日～3月23日

調査主体：美浜町教育委員会

調査面積：22 m²

時代：古代



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 調査地付近、小字高善庵では昭和初期に焼きひずんだ古瓦の採集があり、瓦窯が存在することが想定されていきました。平成15年度に山裾の一部で部分的な発掘調査を実施しましたが、遺構、遺物ともに検出されていません。今回はその存否確認を目的に3か所で調査を行いました。

遺構 東に向かって傾斜する山裾にあたり、現在は高低差のある2段の平坦面をもつ地形です。下段の平坦面では、表土下の地山土は削平されて岩盤が露頭しますが、溝2基、土坑1基、小穴6基が検出されました。上段の平坦面では、地山面で井戸跡1基、土坑2基、小穴15基が検出され、その上に自然土が堆積し、さらに上に11～12世紀の土師器皿片が多く混じる整地層が分布しています。須恵器片も若干出土しています。

まとめ 集落などが存在したところに、11～12世紀の段階に土砂の急激な自然堆積があり、その後に標高が低いところの地山層を削平して上方に盛土し、古代後期には現在の地形に近い大幅な土地造成が施されたものと考えられます。古代後期に山裾を拠点とする何らかの集落があり、例えば山崩れなどの自然災害を契機に平坦面を造り出す土地造成が施されたと推測できます。今回の調査で瓦窯は発見できませんでしたが、興道寺廃寺廃絶以後、『東寺百合文書』に記述が見られる天台系寺院・興道寺の初期段階とも言える何らかの関係施設が調査地付近に所在した可能性の一端も指摘できるかも知れません。(松葉竜司)



写真1 井戸跡の一部



写真2 自然堆積土と整地土